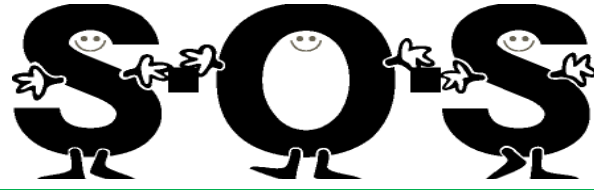


vol. 120通信 (平成22年8月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《2010 夏の宴/S・O・S》

8月14(土)・15(日)の両日、“夏の宴”を開催いたします。是非、お気軽にお越しください。和太鼓、盆経、盆踊り、流しそうめんやゲーム、歌…等の催し物を予定しています。共に楽しく過ごし、厳しい暑さを笑い声で吹き飛ばしませんか？14(土)は、愛宕の家の家族懇談会も行います。有料老人ホームってどんな場所？と思う方は、参加することが出来ますよ。また、随時、介護相談も受け付けます。気軽に声を掛けて下さい。



←写真は、昨年の“夏の宴”で笑いと驚きを誘ったピククリショー。今年も何かが起こる予感！

《虹が出た♪/愛宕の家》

「虹が出てますよ」と来訪されたケアマネさんが教えてくれた。その知らせを聞いた入居者さん達は早速ベランダに出て、「どこ？」と空を見上げる。“淡い色の虹を見つけられるのかな？”という心配は束の間、「あった！」の声。視力検査を実施したかのよう。ちゃ〜んと見えたね(笑) 今度は満月の夜、お団子用意して、皆でお月見しましょう。



《8月の利用状況/S・O・S》

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
7	9	9	8	9	7	9

(数字は定期のご利用者数)

☆ナイス・ケア(定員なし)
新規サービス調整可

☆ナイス・ホーム(定員12名)
登録者8名

★愛宕の家(定員10名)
入居者10名(満室)

☆…募集中 / ★…満員

《看護師コーナー/バイタルサインの一つ、意識について》

バイタルサインの点検は局所に目を奪われることなく全体像の把握が可能となる。バイタルサインシリーズ、最後は「意識」。意識レベルの低下は脳に異常が生じたことを示す。その客観的評価をするために日本の医療現場では下記の表(3-3-9 度方式)を広く利用する。介護スタッフにもこんなものがあるんだということを知って欲しくて。時々、私が記録にII-20 とか書いてることがあれば、下の表をみれば分かるかな…(T)

- I. 刺激しないで覚醒している状態
 1. ほぼ意識清明だが、今ひとつはっきりしない
 2. 見当識(時・場所・人の認識)に障害がある
 3. 自分の名前や生年月日が言えない
- II. 刺激すると覚醒する状態(刺激をやめると眠り込む)
 10. 普通の呼びかけで目を開ける。「右手を握れ」などの指示に応じ、言葉も話せるが間違いが多い
 20. 大声で呼ぶ、体を揺するなど目を開ける
 30. 痛み刺激をしながら呼ぶとそろそろ目を開ける。
 100. 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする
- III. 刺激しても覚醒しない状態
 200. 痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめる
 300. 痛み刺激に反応しない

《あるものを使う/ナイス・ケア》

「ベッド上で髪を洗ったことがないんです」と話すヘルパー。ならばやってみよう、早速実習。バスタオルと大きなビニール袋を使ってケリーパット(洗髪器)を作り、ペットボトルに入れたお湯で髪を洗いました。自宅にあるものを利用して、ベッド上でも十分洗髪できます。ちょっとした工夫で介護用品として使えるものも意外にあります。道具がないと出来ない、方法を知らないから出来ないと思い込んでしまいがち。そんなときこそ、仲間同士であらゆる知識を広めたい。



《登録解除/ナイス・ホーム》

7月中旬。Sさんは登録から半年経ち、介護保険の更新で見直しを必要とする時期。「薬も自分で飲めるし、風呂も洗濯もできるようになった。すごい！」以前の暗い表情で下ばかり向いていたSさんは、今はもうどこにも居ない。生活リズムを整えるために朝・夕と訪問、週3回通いを利用していましたが、今後のナイス・ホームの利用方法を相談していると、「朝と夕、家にきてくれりゃあええよ。」との発言あり。「なぜだ？」と考え、話を聞いてみると「もっとしっかり体操やったり、色んな人と喋ったりできるのならええかなあ…」 小規模の慣じみの関係だけでは足りなくなった？もっと広く色んな人と関わられるかもという意欲や可能性が見えてきた！家族とも相談し「やってみよう！」と、包括センターや居宅事業所に相談。7月末、登録解除を決めました。8月、薬の飲み忘れや寝不足などがある様子を耳にします。「いつ戻ってきてもええよ〜」の声掛けに「世話かけたのに、戻ったら意味ないわなあ〜(笑)」

今年の暑さは格別である。連日のように熱中症で〇人が死亡したというニュースが流れ、ついに「老人を一人にしない様に…」という注意まで報じられた。エアコンがあるからこそ耐えられるだろうが、昔ならば「平成の大飢饉(?)」となって、後世に残る暑い夏となっただろう。が、しかし、来年もその次の夏ももっと暑い夏になるのかも知れないが…。

入居者のTさんが7月30日未明、静かに永眠された。肺気腫を患いながら、胃ろうの手術を受け、退院と同時に他施設からご夫婦で入居され1年半、時には夫婦喧嘩をしながらも、92年の人生の最終ステージを愛宕の家で全うされた。幸い、隣で寝ていた奥さんも気づかない程の平穏な最期であった。

愛宕の家で看取りをさせて頂いた方はこれで4人めである。どの方も苦しむ姿はなかった。携わってきたスタッフ達全員が、“悲しいけれどありがとう”という感謝の気持ちを素直に抱いて最後のお別れができた。要介護状態の人をお世話する日々でいつも心の中にあるのは、「いつか終わりが来る」という覚悟である。そのいつかが分からないからこそ、今日のお世話が有り、その1日1日の関わり方で見送る時の気持ちが大きく変わる。正直なところ、病院で亡くなられた入居者さんに対しては、どことなく心残りがあつたりする。それは、自分たちが最後まで精いっぱい関わることが出来なかったことの悔いだらう。

8月に入って、高齢の寝たきり状態の入居者さんが突然高熱を出すことが増えた。80代90代の人にとっては、生きていくだけで精一杯。体温と意識状態の変化に気を配り、食事と水分摂取量の把握は特に重要であることに気付かされている。居室の温度や空気の流れ等、部屋の環境を一人ひとりの病状に合わせて工夫したり、特に、自ら要求を言葉に出来ない高齢者に対しては、衣・食・住全般に対する様子の把握と対応が求められている。

8月14日は盆供養。初盆となる2人を含め、諸精霊の帰りを皆で迎えて手を合わせましょう。(I)

《いい場所見つけた！/ナイス・デイ》

梅雨明けと同時に猛暑がやってきた。「暑いねえ〜」が挨拶代わり。毎日のようにあちこちに出かけていた外出も一気に閉じこもりがち…。“涼しくていいところはないかなあ〜？”と思っていた。それは、天王祭りの3日前。皆で出かけた津島市観光交流センターに入った瞬間、「わあ〜」「すご〜い！」と口ぐちに歓声が湧きあがった。お祭りに出かけることなどすっかり無くなってしまったお年寄りの目の前になんと天王祭りが再現したのである。

涼しい室内でゆったりとくつろいで、大型テレビで津島の歴史や天王祭り、津島神社の催事を紹介して頂いた。知らないことも多く、驚きの連続。利用者さんの中には歴史好きの方もみえ、豊富な知識にさらに驚かされた。“あっぱれ！”である。交流センターの方には秋祭りのからくり人形を実演して頂いたり、写真撮影をしてもらったりと感動の時間となった。

どこに出かけても“冥土の土産”と皆さんが言われる。それでもいい。これからも、どんどん刺激を受けるよう外へ外へと繰り出していきたい。出かける喜びを共に味わえるなんて、なんて幸せなことだろう！



《夏休み、満喫してま〜す/キッズ》

待ちに待った夏休みが始まりました。午前中に宿題を済ませると、待っていましたとばかりに汗だくになりながら遊びに夢中です。

午後からプール遊びを始めると、「おお〜やってるなあ〜」の決まり文句でMさんが外に出てみえます。「見ているだけで涼しいなあ〜」と言いながら、子どもたちを見ている姿が素敵なんですよ。

セミ捕り・水遊び・スイカ割り等、夏の遊びを体験しながらひとまわり大きく成長していくんでしょね。



《お礼/S・O・S》

7月中旬から月末にかけて、利用者さんやご家族を対象にアンケートを実施しました。ご協力頂き、ありがとうございました。今年、かかりつけ医や緊急連絡先の記入もお願いしました。データを更新し、いざという時のスムーズな対応に結び付けていきたいと思います。

《編集後記》

利用者さんと話をしていると、失礼ながら意外にも趣味や特技が多いことに驚かされます。お祭りで太鼓をたたいていた人、ドラムの音が大好きな人、短歌を詠む、書道、編み物、社交ダンスをしていた人もいます。年をとってからの姿しか知らない私達ですが、イキイキと話す姿からその人の輝く姿が見えてきます。若いものにはまだ負けんぞ〜！という気迫すら感じることも。そんな方々から私達は元気を貰い、上手な年の取り方を教わっている気がします。まだまだ暑さは続きます。お体に気をつけてお過ごし下さい。(M)

